Clinical Cloud かわらばん

Clinical Cloud by MEDIPAL には各領域を牽引するオピニオンリーダーによる良質な医療情報を掲載しています。

最新動画情報 登録無料

第30号
令和3年9月1日
vol. 030

発行元 株式会社Doctorbook
東京都千代田区内神田一丁目14番10号

コロナ後遺症

コロナ後遺症の実態

コロナ後遺症外来での治療のいま

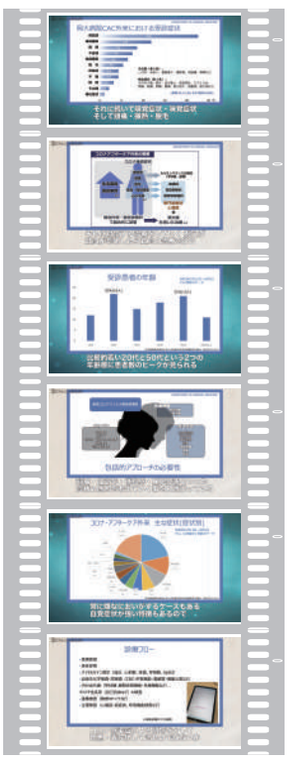
①3:12
②3:05

新型コロナウイルス感染症では、感染して症状が回復したあとも、さまざまな不調を訴える人があとをたちません。このため、後遺症の専門外来が各地で設けられるようになっています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の長期に遷延する症状の実態には、未だ不明点が多く、新型コロナウイルス感染症に対する社会的不安や理解の欠如を引き起こす一因にもなっています。実際に治療は一定の治療方針があるわけではないため、もともとの基礎疾患や現在の後遺症に対する原因が検査等で明らかになった場合には、それに対応する治療をしていくことになります。そこで、代表的な後遺症、筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群（ME／CFS）をはじめとした考慮すべき鑑別疾患など詳しく伺いました。

POINT 1
コロナ後遺症の診断と治療方針

POINT 2
コロナ後遺症の鑑別診断

POINT 3
代表的な後遺症のポイント解説



岡山大学大学院医歯薬学
総合研究科 総合内科学分野
教授
大塚（おおつか） 文男（ふみお） 先生

●経歴
1992 年岡山大学医学部卒業。米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部研究員、岡山大学病院内分泌センター准教授、同センター長などを経て、2012 年から現職。2017 年から岡山大学病院副病院長。

●専門分野
総合内科・総合診療、内分泌代謝、リウマチ

ワクチン開発

後発ワクチン開発の課題と新ワクチンの提案

COVID-19ワクチン開発の現状と課題

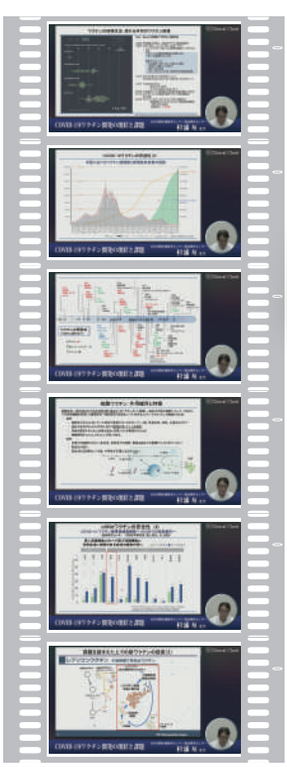
23:50

本邦における第5波とされる状況を迎え、より逼迫する医療体制の中、出口戦略として、治療薬・国産ワクチン開発が待たれます。日本有数の感染症研究機関である国立国際医療研究センターでは、後発ワクチン開発の課題を踏まえたワクチン開発に取り組んでいます。どのようなワクチンが今後望まれるのでしょうか。国内で最も多く接種されているmRNAワクチン（COMIRNARTYとModerna）の事例を用い、解説いただきました。杉浦先生は、「ワクチンという人為的に免疫を付与する技術が感染症との戦いにおいて、極めて有効であるという明確な事実がある」とおっしゃいます。現在の問題点と今後の見通しを詳しく伺いました。

POINT 1
遅れる本邦のワクチン接種

POINT 2
mRNAワクチンの安全性と有効性

POINT 3
レプリコンワクチンと第2世代ワクチン



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター
臨床研究センター 部長
杉浦（すぎうら） 亙（わたる） 先生

●経歴
1991年浜松医科大学大学院修了、医学博士
NIAID/NIH、国立感染症研究所、国立病院機構名古屋医療センター、GSKを経て、2020年4月より現職

●専門分野
内科、ウイルス学（レトロウイルス）、分子疫学

注目動画1

心房細動

医師会員限定動画

高齢者の「転倒」と抗凝固療法

9:56

■ POINT 1
転倒歴のある高齢の心房細動患者さんの問題点

■ POINT 2
転倒リスクを踏まえた抗凝固療法

■ POINT 3
リクシアナの有用性

転倒歴のある高齢患者の場合、抗凝固療法を行えば、転倒時の出血が重症化するリスクがあり、抗凝固療法を控えれば、血栓リスクが高まるといったジレンマに陥り、抗凝固療法の実施について悩むことも多い。しかも、高齢者でみられやすいポリファーマシーは、転倒リスクを増大させる可能性も指摘されている。

したがって、転倒歴のある高齢患者に対しては、例えば自宅の動線に物を置かない、合った靴を履く、痛みを放置しないなど、転倒予防の対策を十分に講じた上で、転倒リスクを踏まえた抗凝固療法を考慮し、加えてポリファーマシーによる転倒リスク緩和のための服薬アドヒアランス改善の工夫も求められる。

その中で、リクシアナは、転倒リスクのある患者に対するエビデンスを有するほか、1日1回投与でOD錠も有するなど服薬アドヒアランスの観点からも、転倒歴のある高齢患者に対する抗凝固療法の有用な選択肢の1つとして期待している。

心臓血管研究所 所長
山下 武志 先生

提供:第一三共株式会社

注目動画2

心房細動

高齢の心房細動患者の特徴とマネージメント

26:27

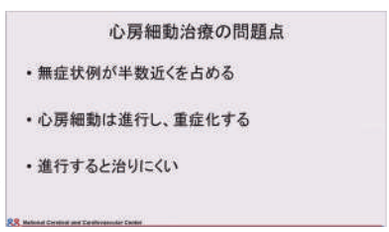
■ POINT 1 高齢者では無症状例も多く早期にAFを発見し、重症化を防ぐ手立てが重要

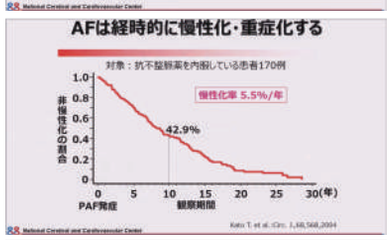
■ POINT 2 DOACの超高齢者での出血頻度に大きな差はなさそうだが、不適切減量では塞栓イベントに注意が必要

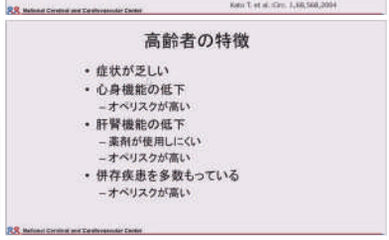
■ POINT 3 開業医処方での前向きデータ(GENERAL)からリバーロキサバンの有効性・安全性が評価された

国立循環器病研究センターの草野先生にご講演いただいた内容を掲載しました。高齢者におけるAF治療のアプローチのお話しや、最近発表された開業医対象の前向き登録研究の結果にも触れていただきながら高齢のAF患者のマネージメントについて分かりやすく解説いただいておりますので、Q&Aとあわせて是非ご視聴ください。

国立循環器病研究センター
心臓血管内科 部門長
草野 研吾 先生
●専門分野：不整脈全般







提供:バイエル薬品株式会社　PP-XAR-JP-2820-25-08

注目動画3

月経困難症

月経困難症の薬物療法

～LEP製剤の周期投与と連続投与の比較を中心に～

6:16

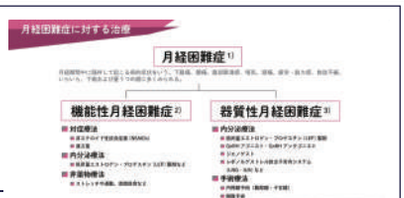
■ POINT 1 月経困難症に対する治療

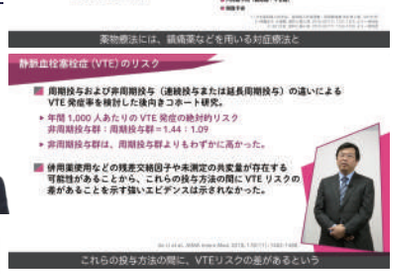
■ POINT 2 周期投与と連続投与について（延長周期投与およびフレックス投与）

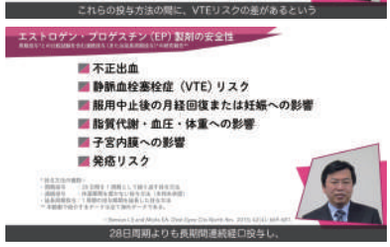
■ POINT 3 エストロゲン・プロゲスチン製剤の安全性

月経困難症の薬物療法には、鎮痛薬などを用いる対症療法と低用量エストロゲン・プロゲスチン製剤（LEP）などを用いる内分泌療法があります。LEP製剤は、21日間連続経口投与し、その後7日間休薬、あるいは24日間連続経口投与し、その後4日間休薬の28日間を単位とする周期投与に加え、28日周期よりも長期間連続経口投与する延長周期投与やフレックス投与が選択できます。今回は、LEP製剤の安全性の面からみた、周期投与との比較試験を含む、連続投与または延長周期投与の海外データについて解説いただきました。

慶應義塾大学医学部
産婦人科学教室　准教授
丸山 哲夫 先生
●ご紹介
慶應義塾大学医学部卒業後、同学産婦人科学教室に入室・研修開始。京都大学ウイルス研究所、米国国立衛生研究所ならびに日本学術振興会海外特別研究員（NIH）を経て慶應義塾大学へ戻り、2014年より現職。







提供:ノーベルファーマ株式会社